

平成17年度地域活性化活動助成の選考結果について

(財)北海道開発協会 会長 小林 好宏

当協会では、21世紀の北海道開発を推進する、地域自らの発想による地域づくりを支援するため、平成17年度の地域活性化活動助成の対象となる活動を、平成16年12月1日から17年4月30日までの間、道内の非営利の団体を対象として公募しました。これに対し、本年は道内各団体から21件の応募をいただきました。応募された活動の内容は、地域おこし、まちづくりを中心に観光、農業、商品開発、芸術関連など多岐にわたっており、さまざまな活動に地域の人々が精力的に取り組まれていることがわかりました。

これらの活動内容について、厳正な審査を行った結果、去る6月21日、下記の7件を選考しました。当協会では今後とも本地域活性化活動助成を続けていく予定です。毎年度12月1日にホームページに募集要領、「開発こうほう」12月号に募集広告を掲載する予定です。皆様方のご応募を期待しています。

平成17年度地域活性化活動助成団体及び活動内容

団体名	活動内容の概要
都市環境デザイン会議 北海道ブロック 代表幹事 柳田 良造	北海道美しい地域環境（都市・田園）ランキング評価調査事業 地域での景観まちづくりを考える基礎情報として、北海道の都市・田園を「美しい」という面で共通の尺度となる評価基準を作成し、現地調査して、評価ランキングを行う。他地域の調査との比較や景観シンポジウムの開催により、北海道の各都市、農村の「美しさ」、「環境の魅力」の特色を浮かびあがらせる。
みかさ・炭鉱の記憶再生塾 会長 解良 守	炭鉱遺産を活用した市民による公園づくり 市民が主体となって、海外有識者や地域外専門家と直結して活動を続けており、公園の基本的な施設（園路・安全対策）とともに、来訪者の知識充足に貢献するインフォメーション機能を整備する。
港と街を繋ぐ会 ^{もやい} 舩 代表 米花 正造	「港」を生かしたまちづくりを目指すシンポジウムの開催 既存の市民団体、観光組織等と連携し、「港」を生かした都市再生やみなとまちづくりを考えるシンポジウムを開催する。小樽港の魅力や観光ポテンシャルなどについてパネルディスカッションを行うとともに、会場にはみなとまちづくり活動を啓発する写真パネル展を併設し、草の根の支援者の裾野を広げる。さらに、シンポジウムの結果を広報誌としてまとめ、駅や公共施設等に置き、市民への啓蒙につなげていく。
ふらのスノーフェスティバル 実行委員会 会長 黒岩 岳雄	シーニックバイウェイ景観形成「ふらの冬のライトアップキャンペーン」 富良野地域の特性を生かし、雪の造形物と光が織りなす景観をテーマに、デザイナーや建築家などのデザインコンペ（10基程度）と生活空間（スノードーム）に「バル（スペイン語、BAR）」を開設することにより冬の生活を体験する。また、国道から会場までの沿道に、ウェルカムゲートやスノーライトアップ・スノーキャンドルなどを設営、会場までの道程を快適な演出を行うことにより、市民と観光客の交流を推進し、郷土意識の醸成、まちづくりにつなげる。
特定非営利活動法人 しもかわ観光協会 会長 谷 一之	日本最北の手延べ麺の里づくり事業 下川町の特産品と空き家を活かしたまちづくりの推進。空き家を利用した下川町のピクニックセンター設置と、センター内で手延べ麺に特化した料理の提供や歴史、技術、手延べ体験もできる施設の運営を行い、地域の商業振興と交流人口の促進と受け入れ体制の整備を行う。
酪農家集団AB-MOBIT 代表 伊藤 泰通	AB-MOBIT交流・体験施設（屯灯館）整備事業 自らの足で風景や地形の変化を感じながら道を歩くことで酪農業、農村を理解してもらうフットパスコースの整備を行っているが、併せてフットパスコースを起点に、現在使用していない牛舎を利用した木工・金属加工体験工房、歴史資料展示室を整備した拠点づくりを行う。これらの施設では木工体験、ファミリー体験プログラムを実施するほか、地域の歴史を紹介し、フットパスと併せて都市住民との交流を行うほか、地域内の交流、さらには地域活性化につなげていく。
NPOひがし大雪アーチ橋友の会 会長 坂本 徳寧	国鉄士幌線跡・旧幌加駅復活事業 士幌線・旧幌加駅を鉄道があった時の原風景を再現し、駅名標、案内板を設置。郷土の歴史遺産として残すとともに、来訪者に地域の歴史を説明、その魅力をPRしていく。